

令和六年度

第四十一回土佐日記門出のまつり

# 俳句入選作品集

選者 橋田 憲明



入賞作品

貫之賞

土佐日記の船路遙けし月の浦

高橋 以登  
南国市



土佐日記賞

遠つ世へ叩くまほらの鉦叩

岡林 知世子  
高知市

古今賞

菜殻火や礎遺る紀子邸址

木俵 奈美  
高知市

国衙賞

天高し子等朗読の土佐日記

杉本 修  
香南市

門出賞

曲水のみやびを照らす月今宵

中村 梅子  
高岡郡日高村

わだつみ賞

露の世に残り偲ばる塔心礎

林 廣裕  
南国市

まほろば賞

比江山を背に月の紀子邸址

大川 房子

高知市

都賞

紀子邸址までを連れ立つ星月夜

高橋 恵子

南国市

碑賞

心礎より描く層塔空の秋

竹内 とし子

南国市

大湊賞

仮名文字といふ涼しさの土佐日記

掛川 敬子

高岡郡中土佐町

# 入 選 作 品

貫之の墓所へ走り根露の道

高橋 以登

紀子邸址風韻綴る落し文

高橋 以登

下萌や万葉かなの土佐日記

木俵 奈美

燈台の灯るも淋し震洋忌

山崎 光子

扇風機止まれば夜風匂ひ来る

楠瀬 小枝子

平安をいまに比江山月今宵

池沢 みえ

たゆたふて心礎のしじま昼の虫

池沢 みえ

国衙の野鴟の高音の遠ざかる

池沢 みえ

貫之の縁を辿る墓参かな

澤村 正彦

紀子邸址鳴き継ぐ比江の法師蟬

杉本 修

秋祭り児童鼓笛の紀氏邸址

山地 川海

露けしや標柱のみの国衙跡

中村 梅子

盛衰を心礎に偲ぶ秋の声

林 廣裕

国衙へと一筋の径花野行く

小松 ゆたか

雲の峰唄ひ継がるる鯨唄

山本 千秋

まほろばや秋草の野に佇みて

信清 澄恵

潮鳴は亡き人の声盆の月

信清 澄恵

一枚にして国衙野の虫の闇

鍋島 美智

庭掃除一息つけば鉦叩

植野 幸子

蝸や散歩の足は早まりて

植野 幸子

ぽっかりと並ぶ卵塔天高し

澤村 和子

比江ふもと稲穂の中の国府跡

澤村 和子

雨上がるまほらに虫の音の澄める

三宮 るみ

紀氏邸に入るを拒まず乱れ萩

長田 貴代

石に座し虫の声聞く紀子邸跡

竹崎 孝子

光陰の碑つなぐ虫の闇

竹内 とし子

曲水の音より秋のはじまれる

公文 敦子

風流る高さに咲けりおみなへし

公文 敦子

吹く風が秋の気配をつれて来し

戸田 裕子

亡き姫へあらんかぎりや虫集く

坂本 喜代子

水打てば俄に風の生まれけり

中越 眞郷

糸引いて蜘蛛の子宙を泳ぎたる

吉永 康子

